

K E
気

SGH 通信

K O H
高海を素材とするグローバルリテラシー育成
～東日本大震災を乗り越える人材を目指して～

第1号 平成28年7月7日発行

海を活かす・海でつながる・海と生きる

「三陸海岸という豊かな自然に抱かれた宮城県「気仙沼」の地から、世界を舞台に活躍するグローバルリーダーを育成する」ことをねらいとしたSGH事業が今年度から始まりました。本校では、国際舞台で活躍するために必要な“コミュニケーション力”“思考力”“多様性・協働性・行動力”の3つの資質を「グローバルリテラシー」と名付け、海を素材とした「協働型学習プログラム」と「東日本大震災復興プログラム」を中心にグローバルリテラシーの育成を目指します。SGH事業の構想や具体的な取り組みなどの詳しい情報は、本校ホームページ<SGHコーナー>に掲載しております。是非ご覧下さい。

これまでの主な取り組み

☆5月18日(水) 地域理解講座①

◆は生徒の感想です

1年生では「地域社会研究(学校設定科目)」という授業に取り組んでいます。「海と産業」「海と文化」「海と防災」「海と人間」「三陸の自然」の5つの領域から研究したい分野を選択し、グループ協働型で探究活動を行います。地域理解講座はそれぞれの領域に精通している地元の方を講師にお招きし、地域の現状をあらためて理解するとともに、課題研究の領域選択に役立てることをねらいとして実施しました。講演いただきました5名の講師の方々にはあらためて御礼申し上げます。

【海と産業】 株式会社気仙沼商会 代表取締役社長 高橋正樹 氏

SGH事業最初の企画「地域理解講座」のトップバッターとしてご講演いただきました。震災直後の我々が知らなかったエピソードや海・山・森をシステムで考えることの重要性など、海の町における産業の在り方を考えるうえで大切なポイントを学ぶことができました。

生徒の感想◆復興させる中で、震災以前の気仙沼よりも良くするために、再生可能エネルギーの開発に取り組んだことにすごさを感じました。地域で循環型社会をつくり、発展させることへの取り組みにとっても感動しました。

◆“そのものだけではなく、そのうらがわを!” “何が役に立つかなんてわからない!なんとなくやって役に立つことが沢山ある”という言葉が心に響きました。◆震災が起きてからどうやって復興してきたのか、森の活用と海の関係など具体的な説明が分かりやすかった。もう少し話を聞きたいと思えるような方でした。◆成功事例はないが前に進んでいくという言葉が印象的で、強い気持ちを感じた。



【海と文化】 リアス・アーク美術館 学芸係長 山内宏泰 氏



これまで、社会人講話(3年生対象)で講話をいただくなど本校の活動にご協力いただいています。「文化」「伝統」の定義、文化財は記憶を思い出すスイッチ、引き算の考え方、自然との共存、津波との共生など講演の内容が濃い「目から鱗」の45分間となりました。

生徒の感想◆震災を防ぐためには人間主体の足し算思考ではなく、環境主体の引き算思考でなくてはならないという話を聞いて、今までが人間中心の考え方だったことに改めて気づき、環境を中心に考えていかななくてはならないと思った。◆復興は、人間の住む場所を確保するために動物の住む場所を奪っているという話にとっても共感できました。きれいごとじゃない、個人の意見で講演していただいたのは楽しかった。◆伝統文化の考え方を一変させる講演だった。気仙沼は津波とともに生きている。だからこそ、津波をただマイナス面のみで捉えるのではなく、得たものや、津波によって生まれた文化などのことも考え、プラスにも捉えるべきなのだと思った。◆リアスを再評価し資源を有効活用する、人口が減るなら町を小さくした方がいい、津波を日常要素として取り組むべきなど参考になる話をたくさん聞くことができた。

【海と防災】 気仙沼市総務部危機管理課 主幹 村上充 氏

村上さんは、熊本県南阿蘇村に震災支援派遣第1陣として5月上旬に避難所運営に行ってきたそうです。講演では阿蘇村の避難所運営に東日本大震災の経験がどのように活かされていたのか、防災訓練の在り方、想定外を想定すること、津波死ゼロの町づくり、ハザードマップの安全性など防災に関わる様々な情報を提供していただきました。

生徒の感想◆東日本大震災での情報伝達や他県との協力体制の教訓を活かし、熊本の地震では現地の人たちのために活動していたと聞き、5年前の経験がムダになってはいけなかった。そして、自分も役立ちたいと考えた。◆市の仕事に興味があるので、復興や災害防止のためにしている活動を詳しく知ることができてよかった。また「人の力」は「自然の力」には勝てないので「想定外を想定する」という言葉が印象的でした。「津波でんでんこ」も大切にしたいです。◆まず驚いたのはハザードマップは安心・安全ではないということ。すべてが想定内で終わるはずはないし、自然の力は時に恐ろしいものになるんだと改めてわかりました。◆大きい地震じゃなくても津波が起こることがあることを知りました。



☆5月25日（水）地域理解講座②

【海と人間】 気仙沼市震災復興企画課 課長 小野寺憲一 氏

気仙沼市の抱えている課題が震災以前から始まっていたことなど、生徒にとって気仙沼の現状を知る良い機会となりました。世界の港町を目指す、気仙沼の日本一、復興への取り組みなど気仙沼の魅力をあらためて感じるこができた“ワクワク”感満載の講演でありました。

生徒の感想◆魚を魚としてではなく、化粧品やソースなどにしているのに驚きました。さらに、ソースは調味料選手権で最優秀賞をとっているのはすごいと思いました。◆気仙沼には仙台や東京みたいにお店がたくさんなくてつまらないと思っていました。今日の話聞いて、都会のまねをしなくてもその土地にもとからある海の恵みや自然でどう発展させていくのが大切なんだと思いました。◆地方にある世界の港町を目指し「ミニ東京・ミニ仙台にならない」という話にと

ても納得できた。◆復興とは壊れたものを直すのではなく、地域課題を解決することなんだと思いました。志ムビーでは気仙沼の明るい未来を感じることができとても感動しました。◆気仙沼の未来を再発見できました。



【三陸の自然】 前気仙沼市教育委員会教育長 白幡勝美 氏

平成17年度統合校の初代校長であり、教諭時代には気仙沼高校で理科を教えておられました。白亜紀の地層が今の気仙沼の地形や産業に関わっていること、ILCの設置が地層的に最適なことや気仙沼への経済効果、国際交流の活性化につながるなど三陸の自然について多角的なアプローチで講演をいただきました。

生徒の感想◆小学生の時にリニアコライダーについて関係者からの話を聞く機会があり、興味をもっていたのですが、なぜ東北地方でやるのかが分からなかったの、今回の講座で詳しく話を聞くことができて良かった。しかも、その理由には白亜紀に形成された地形が関わっているということに驚きました。◆気仙沼の昔からの自然について詳しく知ることができてよかった。説明の仕方が上手で笑いもありとても楽しかった。◆白亜紀の頃の出来事が3.11の津波から町を守ったということが、とても凄いことだと思った。◆私は宇宙が好きなのでILCに興味を持った。気仙沼市の「最先端科学研修」にも参加してILCについて少しは知っていたので、これについて研究したいと思った。◆自分の住んでいる唐桑が白亜紀に花崗岩できていなかったら、なかったかもしれないと聞いて驚きました。



生徒アンケートより	できない	あまりできない	少してきた	できた
知らなかった地域のことを理解できたか。	0 0.0%	10 4.3%	149 64.2%	73 31.5%
地域の課題を見つけることができたか。	1 0.4%	41 17.7%	127 54.7%	63 27.2%
研究・調査を進める上で、参考になったか。	0 0.0%	11 4.7%	130 56.0%	91 39.2%

防災訓練6月14日・職員防災研修6月16日

今回の訓練では、今後実施する生徒主体の防災訓練の参考となるよう、生活防災委員会の生徒が対策本部・避難経路・避難場所等に立ち、訓練の様子を確認しました。

また、職員研修では防災訓練の反省と今後の実施方法について自衛隊の方を交えてのグループワークを行いました。

事務室において避難経路確認に立ち会う生活防災委員（写真右）

